

東南アジア講演と研究分野の選択

9月26日(土)国際コース1年のグローバル課題探究の授業として、4名の講師をお呼びし、インドネシアとベトナムを中心とする東南アジアについての講演を行いました。

インドネシアの国際開発、医療・福祉 (中部大学 青木教授)

4月にも講演をしていただいた青木教授からは、先日インドネシアへ事前調査に行った様子を紹介していただきました。生徒たちは同じ年代のインドネシア生徒が本校教諭と一緒に写っている写真を見て、興味を持ち、自分とインドネシアがさらに近づいたようでした。そして、発展の裏で起こっている国の課題について、生徒に問いかけながらお話をしていただきました。特にインドネシアで使われている母子手帳の実物も見せていただき、なぜ絵が多いのか、日本との違いはほかに何があるのかなどの問いがあり、身近な物に課題解決の手がかりがあることを教えていただきました。

インドネシアの国際ビジネス、環境・エネルギー (広島大学 山根氏)

中部大学の卒業生であり、インドネシア「じゃかるた新聞社」で勤務していた経験を持つ山根氏に講演いただきました。中部地方の電力燃料の多くをインドネシアから輸入しているということを知り、生徒たちはとても驚き、日本とのつながりの強さを感じていました。そして、北九州市がインドネシアで行う環境ビジネスやテクノロジーを途上国に届ける NGO コペルニクの取り組みを紹介していただき、ビジネスでも世界に貢献できるということを教えていただきました。



講演の様子

ベトナムの国際開発、医療・福祉 (名古屋大学 長坂氏)

ベトナムについて研究されている長坂氏からは、インフラ整備などの大きな支援も大切だが、地域への小さな支援活動も大切だという視点で、青年海外協力隊のコミュニティー開発の事例をご紹介します。村で飲まれているお茶の葉の加工販売について、どんな流れの活動があり、それにはどんな問題があったのか、実際の具体例を出していただき、わかりやすく説明いただきました。さらに、村人の自主性はあるのか？本当に支援はあったほうがいいのか？など考えさせられる問いを投げかけていただき、生徒の研究にも繋がる内容となりました。また、医療福祉についても病院での治療だけでなく地域での支えあいや宗教の力の大きさという視点も教えていただきました。

ベトナムの国際ビジネス、環境・エネルギー (立教大学 大橋教授)

観光学を研究されている大橋教授より「現代世界と観光」という視点から、ベトナムで観光が及ぼす影響についてお話いただきました。世界では10億人が海外に旅行する中、ベトナムにも年間787万人もの人が観光に訪れ、そのことにより経済だけでなく社会や文化にも影響が及んで

いと教えていただきました。急速なインフラ整備による環境問題、少数民族の人権問題など、ただ観光客を誘致して発展すればよいとは限らないという、開発の難しさを知ることができました。

どの講演も、生徒たちにとって新しい発見があり、今後の活動へのよい問題提起となりました。青木教授と山根氏の講演は特進・啓明コース1年の授業内でも行われ、生徒からは「自分の視野のせまさに気付いた」「これから積極的にSGHの活動をしていきたい」という感想がありました。



研究分野の選択と調べ学習

講演を聞き、生徒たちは自分の興味関心のある研究分野の選択を行いました。本校SGHプログラムでは、「国際開発」「国際ビジネス」「環境・エネルギー」「医療・福祉」の4つの研究テーマ群を設け、各自選択したテーマに沿った研究を行います。まずは、今回の講演を基にインドネシア・ベトナム・日本について各テーマの問題を各自まとめました。

次週10月3日（土）の授業内では、各自まとめたものをチームで共有したのち、問題を整理するためKJ法（カード式整理法）を用いて、可視化しました。各チームなんとなく感じていた問題が、グループ化することで整理され、問題の関係性も少しずつ見えてきました。これをもとに、生徒たちはさらに探求を深めていきます。



KJ法（カード式整理法）で問題を可視化する



グループ化された問題